製品安全データシート

会社　　日本躯体処理株式会社
住所　　埼玉県川口市道合２６２－１
電話番号　048-229-7222　FAX 番号　048-229-7223

ＭＳＤＳ　Ｎｏ：000　　　　作成　2014 年 2 月 28 日

製品名（化学名、商品名など）　　ＲＣガーデックス 強化剤

物質の特定	単一製品・混合物の区別	：　混合物
	化学名	：　硝酸カルシウム、亜硝酸カルシウム、水酸化カルシウム
	分有量	：　30% 硝酸カルシウム水溶液
	化学式または構造式	：　$Ca(NO_3)_2$, $Ca(NO_2)_2$, $Ca(OH)_2$
	ＣＡＳ　Ｎｏ.	：　１０１２４－３７－５、１３４８０－０６－８
	労働安全衛生法	：　なし

応急措置

一般的な処置：気分が悪い時は、医師の診断・手当てを受ける。
暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断・手当てを受ける。

皮膚に付いた場合：皮膚または毛にかかった場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ捨て流水・シャワーで洗う。多量の水と石鹸で優しく洗う。
皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断・手当てを受ける。
付着物を清浄な乾いた布で素早くふき取る。
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受ける。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。
眼の中にすべての水が行き届くようにするように洗浄する。
眼をこすらせてはならない。
眼の刺激が続く場合：医師の診断・手当てを受ける。

飲み込んだ場合：直ちに水で口の中を洗浄する。無理に吐かせてはならない。
飲み込んだ場合、直ちに医師の診察を受け、医師にそのラベルまたは容器を見せる。

吸入した場合：水でうがいをして、空気の新鮮な場所に移動し、安静にする。直ちに医師の手当・診断を受ける。

火災時の措置　　周辺設備に適した消火剤を使用する。

漏出時の措置　　人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

回収が終わるまで充分な換気を行う。
換気不十分な場所で漏洩を処理するときは自給式呼吸保護具を着用する。
適切な保護具を着用する。
こぼれた場所はすべりやすいため注意する。
着火源を取り除くとともに換気を行う。

風上から作業し、風下の人を退避させる。
安全に対処できる場合は漏洩を止める。
二次災害の防止策
漏出物を回収する。
回収物の廃棄方法については専門家の指示を求める。
安全に対処できる場合は漏洩を止める。

取扱いおよび保管上の注意

取扱い : 粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入してはならない。
指定された個人用保護具を使用する。
皮膚に触れないようにする。
眼に入らないようにする。
吸入や接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こす恐れがある。
使用前に取扱説明書を入手する。
取り扱う前に全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わない。
屋外または換気の良い場所でのみ使用する。
作業中は飲食、喫煙はしない。
可燃物との接触に注意する。
保護手袋・保護眼鏡・顔面保護具を着用する。
取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

保管 : 涼しい所に置き、日光から遮断する。
国・地方の規則に従って保管する。
施錠して保管する。
換気の良い所で保管する。
容器を密閉する。

暴露防止措置

管理濃度 : データなし
許容濃度 : データなし
設備対策 : 適切な換気のある場所で取り扱う。
手洗い、洗顔設備を必要に応じて設置する。
防護具 : 換気が十分でない場合は、呼吸用保護具を着用する。
保護手袋を着用する。
保護眼鏡・顔面保護具を着用する。
保護衣を着用する。
衛生 : 妊娠中・授乳期中は接触を避ける。
取扱い後は汚染箇所をよく洗う。
休憩、終業時は手を洗う。
休憩、終業時はうがいをする。

物理／化学的性質

外観 : 無色透明液体。
ｐＨ : 4.0-8.0

安定性及び反応性　　通常の保管条件・取扱条件において安定である。

有害性情報　　急性毒性 ： 経口 ラットLD50値 9285 mg/kg bw（IUCLID (2000)）。(GHS分類：区分外)

経皮 本物質を81～93 %含有する試験物質10000 mg/animal「(動物体重200 g、純度81%として1.6 g/kg相当)」をラットに4時間適用し、毒性症状なし（IUCLID (2000)）。(GHS分類：データ不十分のため分類できない)

吸入　吸入（ガス）：　GHS定義による固体である。(GHS分類：分類対象外)

吸入（蒸気）：　データなし。(GHS分類：分類できない)

吸入（粉じん・ミスト）：　データなし。(GHS分類：分類できない)

皮膚腐食性・刺激性 ：動物試験のデータはなく、ヒトでは6人の農夫が肥料（硝酸カルシウム）と接触後に腐食性の傷害を生じたが、肥料の組成、濃度、ばく露時間など本物質に関する情報はない（IUCLID (2000)）。(GHS 分類：データ不足で分類できない)

眼に対する重篤な損傷・刺激性 ： データなし。(GHS分類：分類できない)

呼吸器感作性又は皮膚感作性 ： 呼吸器感作性：データなし。(GHS分類：分類できない)

皮膚感作性：データなし。(GHS分類：分類できない)

生殖細胞変異原性：in vitro 変異原性試験として大腸菌を用いたDNA 損傷修復試験で陰性の報告(IUCLID(2000))がある。(GHS 分類：in vivo 試験のデータがないため分類できない)

発がん性　：データなし。なお、IARC(IARC Vol.94(2010))は食物中、飲水中の硝酸塩のヒトでの発がん性は不確実な証拠であるとしている。そのうえで経口摂取による硝酸塩または亜硝酸塩が生体内でニトロソ化される条件での発がん性を 2A と評価している。IARCの総合評価には、「ヒトの体内では硝酸塩と亜硝酸塩の変換が起こること。消化管の酸性条件では亜硝酸塩から生ずるニトロソ化物が二級アミン、アミドなど特にニトロソ化されやすい物質とともに直ちに N-ニトロソ化合物に変化する。硝酸塩、亜硝酸塩、ニトロソ化物の追加摂取により、これらのニトロソ化条件はさらに促進される。ある種の N-ニトロソ化合物はこれらの条件下で既知の発がん性物質を形成することがある。」との追加記載がある。(GHS分類：分類できない)

生殖毒性 ：データなし（GHS分類：分類できない)

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：本物質自体のヒトでの報告はないが、水溶性硝酸塩一般として、硝酸ナトリウムを食塩と誤って摂取した１５人の兵士がメトヘモグロビン血症になり約15gを摂取した13人が死亡し、5gを摂取した2人が生存した(ECETOC TR 27(1988))。(GHS分類：区分１（血液))

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：水溶性硝酸塩一般についての慢性毒性として、硝酸塩を含む食事、水を摂取した幼児にメトヘモグロビン濃度の上昇が多数報告されていること、利尿剤として硝酸ナトリウム、硝酸アンモニウムを、尿路結石防止剤として硝酸アンモニウムを投与された患者にメトヘモグロビン血症がみられる(ECETOC TR27(1988))。このほか硝酸

塩の影響として心臓等への影響が報告されているが、メトヘモグロビン血症による酸素欠乏の二次的影響(EHC 5(1978))と考えられる。(GHS 分類：区分１（血液))

吸引性呼吸器有害性：データなし。(GHS 分類：分類できない)

環境影響情報

生体毒性 ： 分類実施中

オゾン層への有害性： 分類実施中

廃棄上の注意

残余廃棄物

（適切な処置を講じたとき以外は）環境への放出を避ける。

内容物・容器を地方・国の規則に従って廃棄する。

承認された廃棄物集積場で処理する。

環境汚染を防止するために適切な容器等を使用する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に撤去する事。

輸送上の注意

国連番号、国連分野

国連分類：5.1（酸化性物質類　酸化性物質)、国連番号：1454

海洋汚染防止法

非該当

輸送の特定の安全対策及び条件

容器に漏れがないことを確かめ、店頭・落下・損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を行い、直射日光を避けて、運搬する。

適用法令

毒物及び劇物取締法 ： 該当しない

労働安全衛生法 ： 非危険物

化学物質管理促進(PRTR)法 ： 該当しない

消防法 ： 該当しない

その他

記載内容の問い合わせ先 ： 日本躯体処理株式会社

ＴＥＬ　０４８－２２９－７２２２

危険・有害の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意してください。